

H.C.R.2025 に参加して

田中 愛唯

1. はじめに

2025年10月8日から10日までの3日間、東京ビッグサイトにて国際福祉機器展（H.C.R.2025）が開催されました。国際福祉機器展は、アジア最大規模の福祉機器展示会として知られており、2025年度は来場者数が121,000人を超え、来場者数は4年連続で増加しています。会場には国内外から多くの企業や団体が集まり、さまざまな福祉機器や支援技術が展示されていました。

2. 参加の経緯

私は頸髄損傷による車椅子ユーザーであり、今回が国際福祉機器展への初めての参加でした。参加のきっかけは、日本リハビリテーション工学協会主催の福祉機器コンテストにおいて、ポスターイラスト制作を担当させていただいたことです。そのご縁でコンテストの表彰式にご招待いただき、以前から関心があった国際福祉機器展にも足を運ぶことができました。初参加として、このような貴重な機会をいただけたことを大変ありがたく感じています。



図1 表彰式の様子

3. 展示会参加を通して感じたこと

私が会場を訪れたのは開催初日のみであったため、展示会全体をじっくり見て回ることはできませんでしたが、短い時間の中でも特に印象に残ったのは、

会場全体に漂う熱気でした。これまで私は、病院以外の場所で障害者の方々や福祉機器の開発に携わる方々と直接出会う機会がありませんでした。

しかし今回の展示会では、非常に多くの企業や開発者の方々が、私たち障害者の生活を支えるために日々研究や開発に取り組まれていることを実感しました。そのような取り組みを実際に目にすることができ、大変心強く感じました。私自身、指に麻痺があるため、日常生活において細かな動作に困難を感じる場面が多くあります。そのため、福祉機器や補助具は生活のしやすさを大きく左右する重要な存在です。展示されていた機器の中には、日常生活の負担を軽減し、より快適に過ごすことにつながると感じられるものも多く、福祉機器が生活の質の向上に大きく関わっていることを改めて認識しました。

4. おわりに

今回、国際福祉機器展に参加したことで、障害者と開発者、支援者をつなぐ大切な場であることを強く実感しました。次に参加する機会があれば、より時間をかけて会場を見学し、実際に機器に触れながら、自分の生活にどのように活かせるのかを考えたいです。また、私は若年層の女性としてファッションにも興味がありますが、障害者向けの衣服は機能的性が重視される一方で、デザイン性との両立が難しく、「着やすさ」と「おしゃれさ」を兼ね備えた服に出会う機会はまだまだ多くないと感じています。日常生活を支える福祉機器だけでなく、自分の着たい服を着られることも生活の質を高める重要な要素の一つであると思うので、次回参加する際には、ファッション分野の福祉機器や衣服にも注目しながら見学したいです。

【引用】

1) 国際福祉機器展ホームページ

<https://hcr.or.jp> (2026年2月16日確認)

E-mail: mbow520000@gmail.com